様式2

都市再生整備計画　事後評価シート

多治見駅周辺地区

平成28年3月

岐阜県多治見市

様式2－1　評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県	市町村名	多治見市	地区名	多治見駅周辺地区			面積	15ha
交付期間	平成23年度～平成27年度	事後評価実施時期	平成27年度	交付対象事業費	1,811百万円	国費率	0.4		

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	公園（1号公園、2号公園、3号公園）、地域生活基盤施設（多目的広場、自転車駐輪場）、土地区画整理事業（多治見駅北地区）
	提案事業	地域創造支援事業（景観、修景ワークショップ）、事業活用調査（遺跡発掘調査、事業効果分析）

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設（①耐震性貯水槽、②観光情報板）	①交付対象外となったため削除。 ②土地区画整理事業の期間延伸により、今期の情報板設置を取りやめる。	①関連事業として整備をおこなうため、指標への影響はない。 ②整備を次期計画で行うため、指標への影響はない。
	提案事業	－	－	－
新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設（③災害用調整池、④自動車駐車場） 高質空間形成施設（⑤歩行者用シェルター、⑥修景水路・歩道植栽、⑦電線類地下埋設施設、⑧バリアフリー対応公衆トイレ）	③2号公園に雨水貯留機能を追加。 ④駅利用者の利便性をさらに向上させるため、自動車駐車場を追加。 ⑤駅利用者の利便性をさらに向上させるため、自由通路から自動車駐車場を結ぶ歩行者用シェルターを事業に追加。 ⑥多目的広場の整備概要が固まったため、関連事業に位置づけていた修景水路整備事業を基幹事業に位置づけた。 ⑦当該地区の大目標を推進するために、電線類地下埋設施設の整備事業を追加。 ⑧情報発信施設（第2回追加→第4回削除）に付設する予定であった公衆トイレを事業に追加。	③既計画の公園整備事業と一体的に整備することで効果をもたらす事業であるため、指標への影響はない。 ④目標達成を確実にするための事業であり、数値目標の変更はない。 ⑤目標達成を確実にするための事業であり、数値目標の変更はない。 ⑥関連事業からの基幹事業へ移行のため、指標への影響はない。 ⑦本整備により、歩道上の電柱がなくなり、歩道の歩きやすさなどに対する満足度が向上することが見込まれるため、指標2「交通利便性に関する満足度」および指標3「地区内店舗数」の目標値を変更する。 ⑧目標達成を確実にするための事業であり、数値目標の変更はない。
	提案事業	－	－	－

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
	当　初	平成23年度～平成27年度	－
	変　更	－	

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	住環境に関する満足度	ポイント	2.49	H22	2.70	H27	－	2.68	△	あり	●	土地区画整理事業をはじめとした都市基盤の整備により、住環境が向上し、一定の満足度の改善がみられたが、目標を達成するまでには至らなかった。	平成28年
										なし			
指標2	交通利便性に関する満足度	ポイント	2.61	H22	3.14	H27	－	3.21	○	あり		JR多治見駅周辺において、交通結節点として自動車駐車場、自転車駐車場や歩行者シェルターの整備が図られたことにより、市民の交通利便性に対する満足度が向上したものと考えられる。	平成28年
										なし			
指標3	地区内店舗数	店舗	6	H22	13	H27	－	13	○	あり		土地区画整理事業による基盤整備に加え、駅前の交通環境整備により、駅北側へのアクセス性が向上し、交流の場が形成されてきたことにより、地区内の店舗数が増加してきたと考えられる。	平成28年
										なし			

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1	駅周辺地区の住環境の変化	ポイント	3.00	H22			－	3.64			土地区画整理事業による基盤整備に加え、駅前の交通環境整備により、駅北側へのアクセス性が向上したことで、5年前に比べ良好な住環境が形成されてきたと感じる住民が増加したと考えられる。	平成28年

4）定性的な効果発現状況

アンケートの自由意見を通して、「多治見市の玄関口である駅前環境が良くなった。」、「駐車場、歩行者用シェルターなどが整備され利用しやすくなった。」など、本整備事業に対する肯定的な意見が確認できた。
また、土地区画整理事業による街区の整備により、今後人々が集い・交流できる商業施設・レジャー施設等が出来れば、町の魅力が向上するといった期待の声が多くあった。

5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	－	都市再生整備計画に記載し、実施できた		－
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
住民参加プロセス	多治見駅北地区における虎渓用水を活用した水と緑の委員会	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	市民の意見を、「多治見駅北地区における虎渓用水を活用した水と緑の委員会」に持ち込み、反映させていく。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	まち美化推進協議会	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	さらなる美化推進のため、平成27年度～平成31年度まで第3次多治見まち美化計画を着実に進めていく。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式２－２　地区の概要

多治見駅周辺地区（岐阜県多治見市）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標　心地よい風景があり、そして、にぎわいのある多治見の新たな顔づくり	住環境に関する満足度	単位：ポイント	2.49	H22	2.70	H27	2.68	H27
目標１　土地区画整理事業の推進により、商業機能・居住機能が調和した安全で快適な都市環境を創出する。（魅力ある暮らしの場所の形成）	交通利便性に関する満足度	単位：ポイント	2.61	H22	3.14	H27	3.21	H27
目標２　誰もが訪れ利用しやすく、回遊を創出する交通環境の創出	地区内店舗数	単位：店舗	6	H22	13	H27	13	H27
目標３　多治見駅を拠点とした、にぎわいと魅力の創出	駅周辺地区の住環境の変化	単位：ポイント	3.00	H22			3.64	H27

多目的広場

実施中

修景水路・歩道植栽

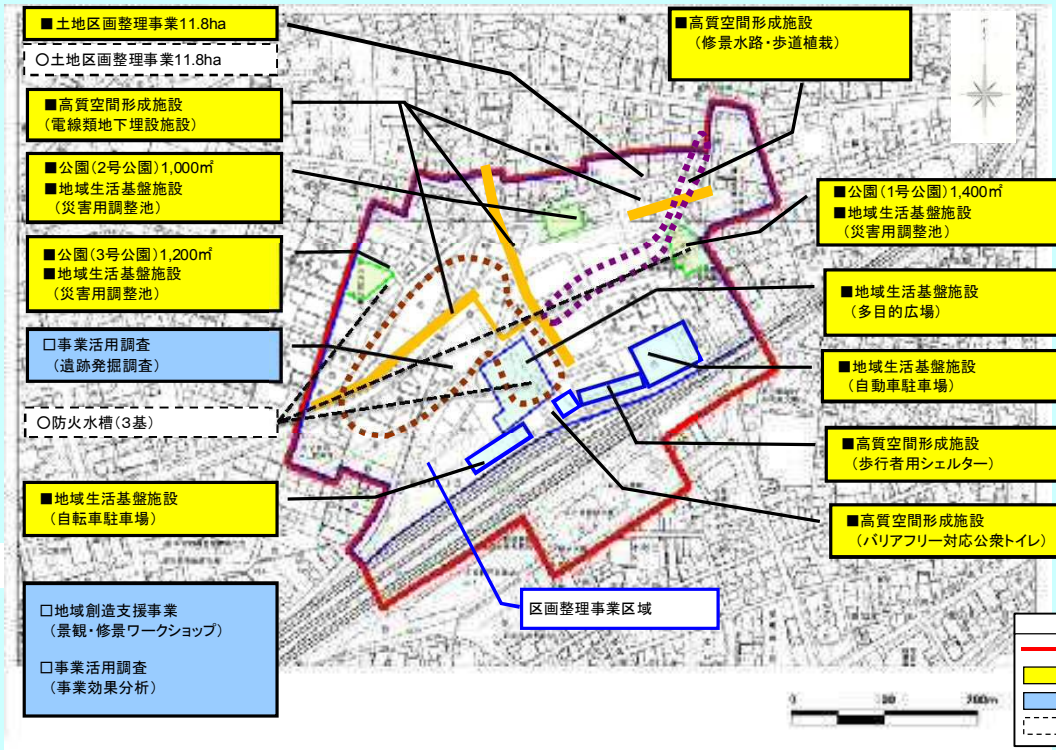
事業後

自動車駐車場

事業後

自転車駐車場

事業後



歩行者用シェルター

事業後

バリアフリー対応公衆トイレ

事業後

多治見駅北土地区画整理事業

実施中

まちの課題の変化	・土地区画整理事業により、街区が整形になり、地区内の宅地、店舗が増加したが、土地区画整理事業の期間延伸により、公園が未整備の状態である。 ・土地区画整理事業や自転車駐車場、自動車駐車場の整備により、公共交通のアクセスに向けた整備が図られ、駅前の拠点性が向上したが、土地区画整理事業の期間延伸により、電線類地中化が未整備の状態である。 ・多目的広場の整備により、駅前の交流の場が創出されるものの、青空駐車場等への用途転換に伴う土地の低利用等、まちのにぎわいや魅力を阻害する新たな課題が発生している。 ・修景水路・歩道植栽整備により、水と緑の環境形成が図られ、地区内の景観整備が進んだ。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・駅周辺地区の公園整備により、中心市街地の憩い・交流の場の創出を図る。 ・防災機能を保有する公園整備により、地区の防災性の向上を図る。 ・道路の無電柱化や誘導標識・点字ブロックの設置により、誰もが利用やすい交通空間の整備を進める。 ・防犯灯や案内板等の設置により、駅前の安全で便利な交通空間を確保する。 ・公園整備や修景・植栽整備により、駅前にうるおいのある空間を確保する。 ・道路空間を活用した緑化の推進と無電柱化により、駅前にふさわしい景観の創出を図る。 ・魅力的な公共空間の創出を図るとともに、地権者、民間事業者等との協働体制を構築し、低未利用地の高度利用促進を図る。

都市再生整備計画　事後評価シート
（添付書類）

（1）成果の評価

添付様式1－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
添付様式1－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（完成状況）
添付様式2－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
添付様式2－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）により計測される効果発現の計測
添付様式2－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

（2）実施過程の評価

添付様式3－①　モニタリングの実施状況
添付様式3－②　住民参加プロセスの実施状況
添付様式3－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

（3）効果発現要因の整理

添付様式4－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制
添付様式4－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
添付様式4－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制
添付様式5－②　まちの課題の変化
添付様式5－③　今後のまちづくり方策
添付様式5－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見
添付様式5－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
添付様式6－参考記述　今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

（6）評価委員会の審議

添付様式8　評価委員会の審議

~~（7）有識者からの意見聴取~~

~~添付様式9　有識者からの意見聴取~~

（1）成果の評価

添付様式１－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		指標2：交通利便性に関する満足度：2.82	指標2：交通利便性に関する満足度：3.14（第3回）	電線類地下埋設施設事業により、歩道上の電柱がなくなり、歩道の歩きやすさなどに対する満足度が向上することが見込まれるため、指標2「交通利便性に関する満足度」の目標値を変更する。（第3回）
			指標3：地区内店舗数：10	指標3：地区内店舗数：13（第3回）	電線類地下埋設施設事業により、快適な都市環境が形成され、地区内の店舗数の増加が見込まれるため、指標3「地区内店舗数」の目標値を変更する。（第3回）
D. その他（　　）		●			

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画 事業費	当初計画 事業内容	最終変更計画 事業費	最終変更計画 事業内容	当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況 完成	事後評価時の完成状況 完成見込み
道路									
公園	1号公園	12	1,400㎡	6	1,400㎡	事業期間の増加、事業量の増加、事業費の増加(第1回) 事業費の減少(第3回) 交付対象事業の事業費の減少(第6回)	事業期間の変更、整備内容の変更（グレードアップ）に伴う事業費の変更であり、数値目標への影響はない。（第1回） 事業費の変更であり、指標への影響はない。（第3回） 区画整理事業を3年延伸したことによる整備の取りやめであるが、次期計画で整備を行うため、指標への影響はない。（第6回）		●
	2号公園	8	1,000㎡	17	1,000㎡	事業期間の増加、事業量の増加、事業費の増加(第1回) 事業費、事業期間の減少(第3回) 事業期間の減少(第6回)	事業期間の変更、整備内容の変更（グレードアップ）に伴う事業費の変更であり、数値目標への影響はない（第1回） 事業費および事業期間の変更であり、指標への影響はない。（第3回） 区画整理事業の進捗に遅れが生じたための事業期間の変更であり、指標への影響はない。（第6回）		●
	3号公園	10	1,200㎡	6	1,200㎡	事業期間の増加、事業量の増加、事業費の増加(第1回) 事業費、事業期間の減少(第3回) 交付対象事業の事業費の増加(第6回)	事業期間の変更、整備内容の変更（グレードアップ）に伴う事業費の変更であり、数値目標への影響はない（第1回） 事業費および事業期間の変更であり、指標への影響はない。（第3回） 区画整理事業を3年延伸したことによる整備の取りやめであるが、次期計画で整備を行うため、指標への影響はない。（第6回）		●
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設（広場）	多目的広場	320	3,400㎡	378	3,500㎡	事業期間の減少（第1回） 事業費の減少、事業量の増加（面積）（第2回） 事業費の増加(第3回) 交付対象事業の事業費の増加(第6回)	事業期間の変更であり、指標への影響はない。（第1回） 事業費、事業量の変更であり、指標への影響はない。（第2回） 事業費の変更であり、指標への影響はない。（第3回） 区画整理事業の進捗に遅れが生じたための事業期間の変更および事業費の変更であり、指標への影響はない。（第6回）		●
地域生活基盤施設（自転車駐車場）	自転車駐車場	200	約700台	38	約870台	事業期間の減少、事業量の増加、事業費の減少（第1回） 事業費の減少（第2回）	事業期間、事業量、事業費の変更であり、指標への影響はない。（第1回） 事業費の変更であり、指標への影響はない。（第2回）	●	
地域生活基盤施設（地域防災施設）	災害用調整池	－	－	7	3箇所	事業の追加（第1回） 事業期間の減少、事業費の増加(第3回) 事業期間の減少、事業費の減少(第6回)	既計画の公園整備事業と一体的に整備することで効果をもたらす事業であるため、指標への影響はない。（第1回） 事業費、事業期間の変更であるため、指標への影響はない。（第3回） 1号公園、3号公園の整備の取りやめに伴う変更であるが、次期計画で整備を行うため、指標への影響はない。（第6回）	●	

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域生活基盤施設（駐車場）	自動車駐車場	－	－	136	約400台	事業の追加（第1回） 事業期間の増加、事業費の減少（第2回） 事業費の減少(第3回) 事業費の増加(第6回)	指標への影響はあるが、目標達成を確実にするための事業であり、数値目標の変更はない。（第1回） 事業期間、事業費の変更であり、指標への影響はない。（第2回） 事業費の変更のため、指標への影響はない。（第3回） 事業費の変更のため、指標への影響はない。（第6回）	●	
地域生活基盤施設	耐震性貯水槽	44	―	－	－	事業の削除（第1回）	関連事業として整備をおこなうため、指標への影響はない。（第1回）	―	―
地域生活基盤施設（情報板）	観光情報板	10	2基	－	－	事業年次の変更（第1,2,3回） 事業の削除(第6回)	事業期間の変更のため、指標への影響はない。（第1、2、3回） 次期計画で整備を行うため、指標への影響はない。（第6回）	―	―
高質空間形成施設（歩道上屋施設）	歩行者用シェルター	－	－	90	約200m	事業の追加（第1回） 事業期間の増加、事業量の増加、事業費の減少（第2回） 事業期間の増加(第3回) 事業費の増加(第6回)	指標への影響はあるが、目標達成を確実にするための事業であり、数値目標の変更はない。（第1回） 事業期間、事業量、事業費の変更であり、指標への影響はない。（第2回） 事業期間の変更のため、指標への影響はない。（第3回） 事業費の変更のため、指標への影響はない。（第6回）	●	
高質空間形成施設（緑化施設等）	修景水路・歩道植栽	－	－	41	水路：約400m 植栽：約1,500m	事業の追加（第2回） 事業規模の追記(第3回) 事業期間の減少、事業費の減少(第6回)	関連事業から基幹事業へ移行のため、指標への影響はない。（第2回） 事業規模の変更のため、指標への影響はない。（第3回） 次期計画で整備を行うため、指標への影響はない。（第6回）	●	
高質空間形成施設（緑化施設等）	バリアフリー対応公衆トイレ	－	－	50	50㎡	事業の追加（第4回）	指標への影響はあるが、目標達成を確実にするための事業であり、数値目標の変更はない。（第4回）	●	
高質空間形成施設（電線類地下埋設施設）	多治見駅北地区	－	－	114	約1,200m	事業の追加（第3回） 事業期間の減少、事業費の減少(第6回)	事業追加に伴い、指標2「交通利便性に関する満足度」および指標3「地区内店舗数」の目標値を変更する。（第3回） 次期計画で整備を行うため、指標への影響はない。（第6回）		●
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業（都市再生）	多治見駅北土地区画整理事業	680	11.8ha	865	11.8ha	事業期間の減少、事業費の増加（第1回） 事業期間の増加（第3回）	事業期間、事業費の変更であり、指標への影響はない。（第1回） 事業期間の変更であり、指標への影響はない。（第3回）		●
住宅市街地総合整備事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画 事業費	当初計画 事業内容	最終変更計画 事業費	最終変更計画 事業内容	当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況 完成	事後評価時の完成状況 完成見込み
地域創造支援事業	景観・修景ワークショップ	10	－	26	－	事業期間の減少、事業費の増加（第1回） 事業費の減少（第3回） 事業費の増加、事業期間の増加（第6回）	事業期間、事業費の変更であり、指標への影響はない。（第1回） 事業費の変更であり、指標への影響はない。（第3回） 事業費の変更であり、指標への影響はない。（第6回）	●	
事業活用調査	遺跡発掘調査	40	多治見駅北土地区画整理事業	33	多治見駅北土地区画整理事業	事業期間の増加、事業費の減少（第1回） 事業費の増加（第3回）	事業期間、事業費の変更であり、指標への影響はない。（第1回） 事業費の変更であり、指標への影響はない。（第3回）		●
	事業効果分析	4	－	4	－				●
まちづくり活動推進事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

（参考）関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費 当初計画	事業費 最終変更計画	事業期間 当初計画	事業期間 最終変更計画	進捗状況及び所見	備考
土地区画整理事業		多治見駅北地区	10,398	12,380	平成11年度～平成27年度	平成11年度～平成27年度		
修景水路整備		多治見駅北地区	150	－	平成25年度～平成27年度	－		
防火水槽		多治見駅北地区	－	44	－	平成25年度～平成27年度		

添付様式２－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	目標値（ウ）	目標年度	数値（エ）				目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
																あり	なし
指標1	住環境に関する満足度	ポイント	精華校区の住民を対象に「住環境に関する満足度」アンケート調査を行い、回答を満足：5点、やや満足4点、やや不満：2点、不満：1点として集計し、回答数で除して平均点を出し、評価値とする。	－	－	2.49	H22	2.70	H27	モニタリング	－		－	モニタリング	－	●	
										事後評価	確定		2.68	事後評価	△		
											見込み	●					
指標2	交通利便性に関する満足度	ポイント	精華校区の住民を対象に「交通利便性に関する満足度」アンケート調査を行い、回答を満足：5点、やや満足4点、やや不満：2点、不満：1点として集計し、回答数で除して平均点を出し、評価値とする。	－	－	2.61	H22	3.14	H27	モニタリング	－		－	モニタリング	－		
										事後評価	確定		3.21	事後評価	○		
											見込み	●					
指標3	地区内店舗数	店舗	多治見駅周辺地区内に立地する商業系店舗、事務所の数を評価値とする。	－	－	6	H22	13	H27	モニタリング	－		－	モニタリング	－		
										事後評価	確定		13	事後評価	○		
											見込み	●					

指　標	目標達成度○△×の理由（達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む）	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
指標1	目標値には達しなかったものの、5年前よりは住環境の改善がみられたと評価できるため△とした。	－
指標2	JR多治見駅を中心とした交通環境整備を行った結果、利便性が大幅に向上し、目標値を超えたため○とした。	－
指標3	地区内の店舗数が増加傾向であり、目標値に達していることから、○とした。	－

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。
※2　目標達成度の記入方法
○：評価値が目標値を上回った場合
△：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
×：評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式２－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	数値（ウ）				本指標を取り上げる理由	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
その他の数値指標1	駅周辺地区の住環境の変化	ポイント	精華校区の住民を対象に「5年前と比べた住環境の変化」についてアンケート調査を行い、回答を良くなっている：5点、若干良くなっている4点、変わらない：3点、若干悪くなっている：2点、悪くなっている：1点として集計し、回答数で除して平均点を出し、評価値とする。	－	－	3.00	H22	モニタリング	－		－	指標1を補完し、「安全で暮らしやすい都市環境」が創出されたことを、5年前と比べた多治見駅周辺地区の住環境の変化を評価するため。	－
								事後評価	確定		3.64		
									見込み	●			

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式２－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

アンケートの自由意見を通して、「多治見市の玄関口である駅前環境が良くなった。」、「駐車場、歩行者用シェルターなどが整備され利用しやすくなった。」など、本整備事業に対する肯定的な意見が確認できた。
また、土地区画整理事業による街区の整備により、今後人々が集い・交流できる商業施設・レジャー施設等が出来れば、町の魅力が向上するといった期待の声が多くあった。

（2）実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式３－①　モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		－	－
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由　　)			

添付様式３－②　住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
多治見駅北地区における虎渓用水を活用した水と緑の委員会	予定どおり実施した	●	【実施頻度】随時 【実施時期】平成23年度～平成26年度 【実施結果】地域コミュニティの形成や魅力ある暮らしのある「場」づくりなどについて、パブリックコメント・市民アンケートなどを通じて周知を図るとともに、障がい者団体や商工会等の代表者が集まる場を設けたことで、様々な立場の意見による検討が行われ、より効果的な整備が可能となった。	市民の意見を、「多治見駅北地区における虎渓用水を活用した水と緑の委員会」に持ち込み、反映させていく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由　　)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由　　)			

添付様式３－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
			ⅰ．体制構築に向けた取組内容	ⅱ．まちづくり組織名：組織の概要	
まち美化推進協議会	予定どおり実施した	●	第2次多治見まち美化計画（平成 22 年度～平成 26 年度）に則り、行政、市民、事業者等が一緒に環境美化を図り、市民の生活環境を向上させるために活動を行っている。	「まち美化推進協議会」	さらなる美化推進のため、平成27年度～平成31年度まで第3次多治見まち美化計画を着実に進めていく。
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由　　)				
	予定どおり実施した				
	予定はなかったが実施した	●			
	予定したが実施できなかった (理由　　)				

（3）効果発現要因の整理

添付様式４－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	産業観光課、市街地整備課	平成27年9月10日	市街地整備課 （都市再生整備計画事業主管課）

添付様式４－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標3		その他指標1			
指　標　名		交通利便性に関する満足度		地区内店舗数		駅周辺地区の住環境の変化			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	公園（1号公園）	○	JR多治見駅周辺において、交通結節点として自動車駐車場、自転車駐車場や歩行者シェルターの整備が図られたことにより、市民の交通利便性に対する満足度が向上したものと考えられる。	○	土地区画整理事業による基盤整備に加え、駅前の交通環境整備により、駅北側へのアクセス性が向上し、交流の場が形成されてきたことにより、地区内の店舗数が増加してきたと考えられる。	○	土地区画整理事業による基盤整備に加え、駅前の交通環境整備により、駅北側へのアクセス性が向上したことで、5年前に比べ良好な住環境が形成されてきたと感じる住民が増加したと考えられる。		
	公園（2号公園）	○		○		○			
	公園（3号公園）	○		○		○			
	地域生活基盤施設（広場）（多目的広場）	○		○		○			
	地域生活基盤施設（自転車駐車場）自転車駐車場	◎		◎		◎			
	地域生活基盤施設（地域防災施設）災害用調整池	－		－		○			
	地域生活基盤施設（駐車場）自動車駐車場	◎		◎		◎			
	高質空間形成施設（歩道上屋設置）歩行者用シェルター	◎		◎		◎			
	高質空間形成施設（緑化施設等）修景水路・歩道施設	○		◎		○			
	高質空間形成施設（緑化施設等）バリアフリー対応公衆トイレ	◎		◎		◎			
	高質空間形成施設（電線類地下埋設施設）多治見駅北地区	○		○		○			
	土地区画整理事業	◎		◎		◎			
提案事業	地域創造支援事業（景観・修景ワークショップ）	○		◎		○			
	事業活用調査（遺跡発掘調査）	－		－		○			
	事業活用調査（事業効果分析）	－		－		－			
関連事業	土地区画整理事業（多治見駅北地区）	◎		◎		◎			
	防火水槽（多治見駅北地区）	－		－		○			
今後の活用		駅周辺地区以外の市民が容易に駅へ出掛けられるような交通ネットワークの創出を進める。		多治見市の玄関口にふさわしい賑わいの場を創出できるような仕掛け（店舗誘致、イベント開催等）づくりを推進する。		土地区画整理事業の期間延伸による未整備の事業を次期計画で整備し、住環境のさらなる向上に努めていく。			

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

添付様式４－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別	指標1										
指　標　名	住環境に関する満足度										
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	公園（1号公園）	△	土地区画整理事業をはじめとした都市基盤の整備により、住環境が向上し、一定の満足度の改善がみられたが、公園や広場等の住環境向上に直接寄与する事業が整備途中だったことから、目標を達成するまでには至らなかった。	Ⅰ									
	公園（2号公園）	△											
	公園（3号公園）	△											
	地域生活基盤施設（広場）（多目的広場）	△											
	地域生活基盤施設（自転車駐車場）自転車駐車場	△											
	地域生活基盤施設（地域防災施設）災害用調整池	△											
	地域生活基盤施設（駐車場）自動車駐車場	△											
	高質空間形成施設（歩道上屋設置）歩行者用シェルター	△											
	高質空間形成施設（緑化施設等）修景水路・歩道施設	△											
	高質空間形成施設（緑化施設等）バリアフリー対応公衆トイレ	△											
	高質空間形成施設（電線類地下埋設施設）多治見駅北地区	△											
	土地区画整理事業	△											
提案事業	地域創造支援事業（景観・修景ワークショップ）	△											
	事業活用調査（遺跡発掘調査）	△											
	事業活用調査（事業効果分析）	－											
関連事業	土地区画整理事業（多治見駅北地区）	△											
	防火水槽（多治見駅北地区）	△											

改善の方針（記入は必須）	土地区画整理事業の期間延伸により、次期計画へ移行した都市基盤未整備箇所の整備を確実に進めることで、安全で快適な住環境の形成に努めていく。			

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式５－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	産業観光課、市街地整備課	平成27年9月10日	市街地整備課 （都市再生整備計画事業主管課）

添付様式５－②　まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
住む場所として魅力ある環境形成が必要	土地区画整理事業により、街区が整形になり、地区内の宅地、店舗が増加した。	住む場所として必要な駅周辺地区内の安全性の確保	青空駐車場等への用途転換に伴う土地の低利用
拠点性の再生とコンパクトなまちづくりが必要	土地区画整理事業や自転車駐車場、自動車駐車場の整備により、公共交通のアクセスに向けた整備が図られ、駅前の拠点性が向上した。	－	
回遊起点となる駅周辺整備が必要	多目的広場の整備により、駅前の交流の場が創出されつつある。 修景水路・歩道植栽整備により、水と緑の環境形成が図られ、地区内の景観整備が進んだ。	駅前にふさわしい景観創出に向けた整備が必要	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式５－③　今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	住む場所としての魅力がある中心市街地の骨格形成のための都市基盤未整備箇所の整備	・駅周辺地区の公園整備により、中心市街地の憩い・交流の場の創出を図る。	＜基幹事業＞ ・公園 〔1号公園、3号公園〕 ＜提案事業＞ ・地域創造支援事業 〔照明施設（防犯灯）〕
	駅周辺の回遊性を向上させるための歩行者の安全性や快適性の確保	・道路の無電柱化や誘導標識・点字ブロックの設置により、誰もが利用しやすい交通空間の整備を進める。 ・防犯灯や案内板等の設置により、駅前の安全で便利な交通空間を確保する。	＜基幹事業＞ ・地域生活基盤施設 〔案内標識整備（案内板）〕 ・高質空間形成施設 〔電線類地下埋設施設（電線共同溝整備）、障害者誘導施設（点字ブロック）〕 ＜提案事業＞ ・地域創造支援事業 〔照明施設（防犯灯）〕
	市の玄関口としての魅力を向上させるための景観整備の充実	・公園整備や修景・植栽整備により、駅前にうるおいのある空間を確保する。	＜基幹事業＞ ・高質空間形成施設 〔電線類地下埋設施設（電線共同溝整備）、修景・植栽整備〕 ・公園 〔1号公園、3号公園〕

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改　善　策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	駅周辺地区の防災性の向上	・防災機能を保有する公園整備により、地区の防災性の向上を図る。	＜基幹事業＞ ・公園 〔1号公園、3号公園〕 ・高質空間形成施設 〔電線類地下埋設施設（電線共同溝整備）〕
	駅前にふさわしい良好な景観整備を推進	・道路空間を活用した緑化の推進と無電柱化により、駅前にふさわしい景観の創出を図る。	＜基幹事業＞ ・高質空間形成施設 〔電線類地下埋設施設（電線共同溝整備）、修景・植栽整備〕
	低未利用地の高度利用促進	・魅力的な公共空間の創出を図るとともに、地権者、民間事業者等と連携し、低未利用地の高度利用促進を図る。	＜基幹事業＞ ・高質空間形成施設 〔電線類地下埋設施設（電線共同溝整備）、修景・植栽整備〕 ＜その他＞ ・地権者意識の啓発活動の実施 ・民間活力の誘導策の検討

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式５－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
●	事業の実施過程の評価（添付様式３）を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式４－②）を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式４－③）を再確認した。
●	残された課題や新たな課題（添付様式５－②）を再確認した。

添付様式５－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・道路整備による多治見駅の南北の分断解消が必要である。
・多目的広場を起点に緑を広げることが重要である。
・駅前の案内標識について、英語表記やピクトグラム等を活用していく必要がある。
・まちづくりに関する計画を立てる際、住民と一緒につくっていくことが重要である。
・まちづくり事業を実施する際には、文化活動の視点も重要である。

添付様式５－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式２－①、２－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式２－①、２－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指　標		単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
													予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	住環境に関する満足度	ポイント	2.49	H22	2.70	H27	確定		2.68	△	あり	●	H28	評価値と同様の方法により住民満足度アンケートを実施し、確定値とする。	
							見込み	●			なし				
指標2	交通利便性に関する満足度	ポイント	2.61	H22	3.14	H27	確定		3.21	○	あり		H28	評価値と同様の方法により住民満足度アンケートを実施し、確定値とする。	
							見込み	●			なし				
指標3	地区内店舗数	店舗	6	H22	13	H27	確定		13	○	あり		H28	多治見駅周辺地区内に立地する商業系店舗、事務所の数を確定値とする。	
							見込み	●			なし				
その他の数値指標1	駅周辺地区の住環境の変化	ポイント	3.00	H22			確定		3.64				H28	評価値と同様の方法により住民満足度アンケートを実施し、確定値とする。	
							見込み	●							

添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	指標2の交通利便性による満足度は、市民が日常的に利用する自動車駐車場、自転車駐車場、歩行者用シェルターなどの整備があったため、事業実施の直接的な効果が得られた。	計画策定段階において、各事業がどの目標指標に影響するかを考慮して目標値を設定する必要がある。
	うまく いかなかった点	－	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	－	－
	うまく いかなかった点	－	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	景観・修景ワークショップであがった市民の意見を、「多治見駅北地区における虎渓用水を活用した水と緑の委員会」に持ち込み、反映させた。	住民参加で事業を進めることは、事業後維持管理等に向けた意識向上が図られるため、有効である。
	うまく いかなかった点	－	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	事業期間中計6回の都市再生整備計画の変更を実施したことにより、進捗状況を確認しながら、適正に事業を進めることが出来た。	計画の定期的な見直しは、予定事業の進捗確認や事業内容の検証が出来るため有効である。
	うまく いかなかった点	－	
その他	うまくいった点	駅周辺の都市基盤整備が目に見える形で進展したことで、他地区の住民のまちづくりに対する意識向上に波及した。	計画的なまちづくりの推進は、まちづくりに対する住民の参画意識が高まるため、有効である。
	うまく いかなかった点	－	

添付様式6－参考記述　今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

多治見駅周辺地区において、平成28年度より社会資本整備総合計画交付金を活用した事業の実施を予定している。

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成27年10月1日～10月15日	平成27年10月1日～10月15日	担当課へ郵便、ファックス、Eメールなど	市街地整備課（都市再生整備計画事業主管課）
広報掲載・回覧・個別配布	広報に市のホームページ及び担当課窓口で原案を公表している旨を掲載	平成27年10月1日発刊 広報たじみ平成27年10月1日号	平成27年10月1日～10月15日		
説明会・ワークショップ	―	―	―		
その他	市街地整備課窓口で閲覧	平成27年10月1日～10月15日	平成27年10月1日～10月15日		

住民の意見	意見なし

（6）評価委員会の審議

添付様式8　評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	松本　直司　（名古屋工業大学大学院教授）	平成27年12月4日	市街地整備課（都市再生整備計画事業主管課）	多治見市都市再生整備事業(まちづくり交付金）評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	久野　孝好　（陶都信用農業協同組合代表理事専務） 宮浦　哲也　（多治見商工会議所専務理事） 山口　真由美　（多治見市議会議員） 都築　朋子　（市民）				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・ アンケート調査を活用した指標に関する成果の評価にあたり、どのように目標値を設定したかについて質問があった。 →当初計画時の目標値の設定の考え方及び実施したアンケート調査票の内容について説明し、委員の理解を得た。 ・指標1とこれを補完するその他指標1の関係性がわかりづらいとの意見があった。 →指標1とこれを補完するその他指標1それぞれについて、アンケート調査での設問の主旨について説明し、委員の理解を得た。
	実施過程の評価	・住民参加プロセス、持続的なまちづくり体制の構築について、それぞれ実施されたことが確認された。
	効果発現要因の整理	・指標1の達成度について、なぜ目標値を達成しなかったのかを明確に記載する必要があるとの意見があった。 →アンケート実施時点において、評価に影響する事業が整備途中だったことから、効果発現要因の所見に「公園や広場等の住環境向上に直接寄与する事業が整備途中だった」ことを追加した。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、広報による周知の後、ホームページおよび窓口閲覧により公表されたことが確認された。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	①想定される事業にあげられている「無電柱化」の整備の根拠について、現在策定中の総合計画と不整合があるとの意見があった。 →総合計画との整合を考慮し、防災に関する項目の想定事業に無電柱化を追加した。 ②道路整備による多治見駅の南北の分断解消が必要との意見があった。 ③多目的広場を起点に緑を広げることが重要との意見があった。 ④駅前の案内標識について、英語表記やピクトグラム等を活用していく必要があるとの意見があった。 ⑤まちづくりに関する計画を立てる際、住民と一緒につくっていくことが重要であるとの意見があった。 ⑥まちづくり事業を実施する際には、文化活動の視点も重要との意見があった。 →②～⑥について、駅周辺のまちづくりに対する意見として、今後のまちづくりに活かしていく。
	フォローアップ	・全ての事業が完了した後、平成28年度においてフォローアップを実施することが確認された。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他		・特になし。

※1　審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。